



帝京大学小学校だより

立場は人を変える

帝京大学小学校 校長 石井卓之

随分昔の話になりますが、自分の娘が幼稚園の年長時代、保育参観を見に行き驚かされたことがありました。それは、年長と年中の子どもたちが、一緒になって活動する時間でした。年長の子どもは練習をしたとは思いますが、遊びを分かりやすく説明し、トラブルを解決しながら年中の子どもたちと一緒に遊ぶことができていました。それは、小学校2年生が1年生と交流する生活科の授業を見ているような風景でした。先生たちの指導があったとは思いますが、園の最年長という立場として、誇りと責任感をもって振る舞う頼もしい姿でした。

ところがわずか数か月後、小学校に入学すると立場は一変します。入学式の翌日から、6年生が登校を待っていて、教室までの行き方や朝の準備の仕方をサポートするのです。学校が長年に渡って「1年生のお世話は6年生が行う」という慣習に基づいた活動です。6年生が最高学年としての責任感をもつためには効果がありますが、1年生にとってはどうなのか。娘の保育参観を見た後からは、考えが変わりました。その後1年生を担当したとき、6年生の先生には自分1人でできる1年生もいるので、「必要な1年生には6年生のサポートをつけるが、できる子どもに対して、6年生は見守る姿勢で手を出さない」ことを依頼しました。結果、例年よりも早く自立することができました。

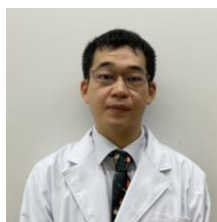
6月19日(月)から21日(水)、3年生と4年生の合同セカンドスクールを八ヶ岳の多摩市少年自然の家で行いました。縦割りの宿泊は本校では初めての取り組みであり、実施例は少ないと思います。日常の学校生活でも縦割り班活動を重視しているので、学校外でもその成果を発揮する場としたいと考えました。施設の所長さんも当初は「初めて3年・4年生を受け入れるので、6年生を基準としたプログラムは難しいのでは？」との考えをもっていました。2学年分の教職員がいること、養護教諭同伴であること、失敗を糧として成長をさせる狙いがあることなどに理解を示していただき、多様なプログラムを実施することができました。4年生がどこまでリーダー性を発揮できるかが重要なポイントでしたが、5年生に勝るとも劣らない働きをしてくれました。特に「でんづくり」という基地づくりでは、ブルーシート、紐以外は森にある自然の材料を活用して、私も想像しなかった工夫で個性あふれる基地をメンバーで協力して創り出しました。この発展形は、本校の里山でもできそうな内容でした。また、3年生は今年の活動をベースにしてさらにバージョンアップしたプログラムに挑戦できると思います。来年度は、3年生は2泊3日、4年生はその後さらに1泊して3泊4日で活動できる見通しをもつことができました。「立場は人を変える」、責任ある立場に立たせることで、個性をより引き出していきたいと考えています。

今年度着任した先生です！

4月に着任しました。2年2組の副担任と2・4・6年生の英語を担当します。英語の授業を通して、「英語が伝わった」を大切に、「英語を使ってコミュニケーションをすることは楽しい!」と思ってもらえるよう精いっぱい努めます。どうぞよろしくお願いいたします。



《教諭 三上 涼加》



《教諭 吉田 憲司》

4月に理科専科として着任しました。4・6年生の理科を担当します。中学や高校での指導経験を活かしながら、理科の授業を通して、「なんで?を大切に」「こう教わったけど本当かな?」「なんで実験がうまくいかなかったんだろう」などの疑問を実験や観察を通して子供たちが自己解決する手助けをしていきたいと考えています。